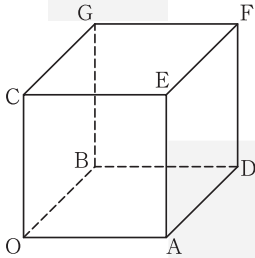


東海大学・医学部 (1日目)

試験日 2023年2月2日 時間 70分 数学I|数学II|数学A|数学B(数列, ベクトル)

- 1** (1) a, a, a, a, a, b, b, c の8文字を1列に並べるとき、並べ方の総数は である。
- (2) 関数 $y = 8^x - 3 \cdot 2^{x+3} + 2$ は、 $x =$ のとき最小値をとる。
- (3) $AB = 8, BC = 5, CA = 7$ である三角形 ABC の内心を I とし、直線 CI と辺 AB との交点を D とする。このとき、三角形 ADI の面積は、三角形 ABC の面積の 倍である。
- (4) $\int_{-1}^2 (x+2)(x-3) dx =$
- (5) 4つの鋭角 A, B, C, D が、 $\cos A = \cos B \cos C, \sin B = \sin A \sin D$ という2つの関係式を満たしているとき、 $\sin C \tan D$ を B のみで表すと、 $\sin C \tan D =$ である。また、 $\tan A \cos D$ を C のみで表すと、 $\tan A \cos D =$ である。
- (6) n を自然数とする。 $\sqrt{n^2 + 63}$ が自然数になるような n は 個ある。
- (7) 方程式 $\log_{2023}(11 - 2x) + \log_{\frac{1}{2023}}(1 - x^2) = \log_{2023}(x + 2) + 2 \log_{\frac{1}{2023}}(x + 1)$ の解は、 $x =$ である。

- 2** $k > 1$ とする。下図のような1辺の長さが1の立方体 $OADB-CEFG$ において、 $\vec{DL} = k\vec{DF}$ となる点を L とし、直線 OL と面 $CEFG$ との交点を M とする。 $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}$ とする。



- (1) \vec{OM} を $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ を用いて表すと であり、 $|\vec{OM}| =$ である。
- (2) $\cos \angle AOM =$ であり、三角形 OAM の面積は である。また、点 C から平面 OAM へ下ろした垂線と、平面 OAM との交点を H とする。垂線 CH の長さは であり、四面体 $OAMC$ の体積は である。
- (3) 点 O と異なる点 N が線分 OF 上にあり、 $\vec{ON} \perp \vec{MN}$ を満たすとき、 $\vec{ON} =$ $(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c})$ である。また、四面体 $ABCN$ の体積は である。
- 3** a を実数とする。数列 $\{a_n\}$ は、初項を $a_1 = a$ とし、自然数 n に対して、漸化式 $a_{n+1} = 4|a_n - 1|$ で定義されるものとする。
- (1) $a = \frac{41}{32}$ のとき、 $a_4 =$ である。
- (2) $a = \frac{47}{64}$ のとき、 $a_4 =$ である。
- (3) すべての自然数 n に対して $a_n = a$ となるとき、 a は、 $a =$ **ア**, または、 $a =$ **イ** である。ただし、 **ア** $<$ **イ** とする。
- (4) $a >$ **イ** ならば、一般項 a_n は、 a を用いて表すと、 $a_n =$ である。
- (5) $a_1 \neq$ **ア** であり、2以上のすべての自然数 n に対して $a_n =$ **ア** となるとき、 a は、 $a =$ である。
- (6) $a_1 \neq$ **ア**, かつ、 $a_2 \neq$ **ア** であり、3以上のすべての自然数 n に対して $a_n =$ **ア** となるとき、 a は、 $a =$ **ウ**, または、 $a =$ **エ** である。ただし、 **ウ** $<$ **エ** とする。

2 東海大学・医学部 (1日目)

1 (1) **【数学A】【場合の数】【基本】**
▶解答◀ $\frac{8!}{5!2!1!} = \frac{8 \cdot 7 \cdot 6}{2 \cdot 1} = 168$ 通り

(2) **【数学II】【最大値・最小値】【基本】**

▶解答◀ $2^x = t$ とおくと, $t > 0$ で, $y = t^3 - 24t + 2$
 $f(t) = t^3 - 24t + 2$ とおくと, $f'(t) = 3t^2 - 24$

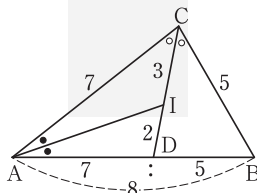
t	0	...	$2\sqrt{2}$...
$f'(t)$		-	0	+
$f(t)$		↘		↗

よって, $t = 2\sqrt{2}$, すなわち, $x = \frac{3}{2}$ のとき, 最小値をとる.

(3) **【数学A】【三角形の基本性質】【基本】**

▶解答◀ CD は $\angle C$ の 2 等分線であるから,

$$AD : DB = AC : CB = 7 : 5$$



さらに, AI は $\angle A$ の 2 等分線であるから,

$$DI : IC = DA : AC = \frac{7}{12} AB : AC$$

$$= \frac{7}{12} \cdot 8 : 7 = 2 : 3$$

よって, $\triangle ADI = \frac{2}{2+3} \triangle ADC$

$$= \frac{2}{5} \cdot \frac{7}{7+5} \triangle ABC = \frac{7}{30} \triangle ABC$$

したがって, $\frac{7}{30}$ 倍

(4) **【数学II】【定積分】【基本】**

▶解答◀ $\int_{-1}^2 (x+2)(x-3) dx$

$$= \int_{-1}^2 (x^2 - x - 6) dx$$

$$= \left[\frac{x^3}{3} - \frac{x^2}{2} - 6x \right]_{-1}^2$$

$$= \frac{8 - (-1)}{3} - \frac{4 - 1}{2} - 6\{2 - (-1)\}$$

$$= 3 - \frac{3}{2} - 18 = -\frac{33}{2}$$

(5) **【数学I】【三角比の基本性質】【標準】**

▶解答◀ 1 つ目の空欄は「A を消去せよ」

と考える.

$$\cos A = \cos B \cos C \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

$$\sin A = \frac{\sin B}{\sin D} \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

$\textcircled{1} + \textcircled{2}$ より

$$1 = \cos^2 B \cos^2 C + \frac{\sin^2 B}{\sin^2 D}$$

$\tan B$ を作るために, 左辺の 1 を $\cos^2 B + \sin^2 B$ にする.

$$\cos^2 B + \sin^2 B = \cos^2 B \cos^2 C + \frac{\sin^2 B}{\sin^2 D}$$

$$\cos^2 B (1 - \cos^2 C) = \sin^2 B \left(\frac{1}{\sin^2 D} - 1 \right)$$

$\cos^2 B$ で割って

$$\sin^2 C = (\tan^2 B) \cdot \frac{\cos^2 D}{\sin^2 D}$$

$$\sin C = (\tan B) \cdot \frac{1}{\tan D}$$

$$\sin C \tan D = \tan B \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

$\textcircled{2} \div \textcircled{1}$ より

$$\tan A = \frac{\tan B}{\sin D \cos C}$$

$\textcircled{3}$ を用いて B を消去すると

$$\tan A = \frac{\sin C \tan D}{\sin D \cos C}$$

右辺の $\sin D$ を約分して $\cos D$ をかけると

$$\tan A \cos D = \tan C$$

【注意】 $t = \tan \frac{\theta}{2} \left(-\frac{\pi}{2} < \frac{\theta}{2} < \frac{\pi}{2} \right)$ のとき

$$\cos \theta = \frac{1-t^2}{1+t^2}, \sin \theta = \frac{2t}{1+t^2}$$

の左辺から右辺を導く方法で, 現在の教科書は

$1 + \tan^2 \alpha = \frac{1}{\cos^2 \alpha}$ を用いるように教える. これはへたな方法で, 習ってからしばらくしてやらせると右往左往する生徒が多い.

伝統的な手法は分母に 1 を見て 1 を $\cos^2 \alpha + \sin^2 \alpha$ でおきかえる. $\alpha = \frac{\theta}{2}$ とおくと

$$\cos \theta = \frac{\cos 2\alpha}{1} = \frac{\cos^2 \alpha - \sin^2 \alpha}{\cos^2 \alpha + \sin^2 \alpha}$$

$$= \frac{1 - \tan^2 \alpha}{1 + \tan^2 \alpha} = \frac{1 - t^2}{1 + t^2}$$

とする. 「次数をそろえるために 1 を $\cos^2 \alpha + \sin^2 \alpha$ でおきかえ, 2 次の同次形をつくる」のである.

$1 + \tan^2 \alpha = \frac{1}{\cos^2 \alpha}$ を有効なテクニックだとすることがいけないのは, コスとサインのバランスをくずしていることにある.

(6) **【数学A】【約数と倍数】【標準】**

▶解答◀ $\sqrt{n^2 + 63} = m$ とおくと, m は 8 以上の整数で

$$n^2 + 63 = m^2$$

$$(m+n)(m-n) = 63$$

$$m+n > m-n \geq 1$$

$$(m+n, m-n) = (63, 1), (21, 3), (9, 7)$$

$(m, n) = (32, 31), (12, 9), (8, 1)$

自然数 n は 3 個ある.

(7) **数学II**【指数・対数方程式】**標準**

▶解答▶ 真数条件より

$11 - 2x > 0, 1 - x > 0, 1 + x > 0, x + 2 > 0$

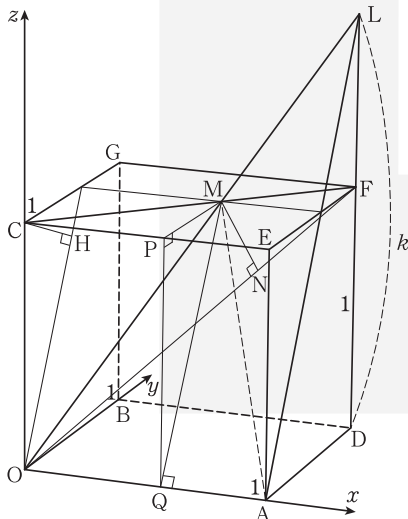
まとめると, $-1 < x < 1$ ①
与式より

$$\begin{aligned} & \log_{2023}(11 - 2x) - \log_{2023}(1 - x) \\ & - \log_{2023}(1 + x) \\ & = \log_{2023}(x + 2) - 2\log_{2023}(x + 1) \\ & \log_{2023}(11 - 2x) + \log_{2023}(1 + x) \\ & = \log_{2023}(x + 2) + \log_{2023}(1 - x) \\ & \log_{2023}(11 - 2x)(1 + x) \\ & = \log_{2023}(x + 2)(1 - x) \\ & (11 - 2x)(1 + x) = (x + 2)(1 - x) \\ & x^2 - 10x - 9 = 0 \end{aligned}$$

①を満たす解を求めて, $x = 5 - \sqrt{34}$

2 **数学B**【ベクトルと図形(空間)】**標準**

▶解答▶ 図のように座標軸を設定する.



$A(1, 0, 0), B(0, 1, 0), C(0, 0, 1)$ である. $DF = 1$ であるから $DL = k$ で, $\vec{OL} = (1, 1, k)$
 $\vec{OM} = t\vec{OL} = (t, t, kt)$ とおいて, M の z 座標が 1 であるから $t = \frac{1}{k}$ である. $\vec{OM} = \frac{1}{k}(1, 1, k)$

$$\begin{aligned} \vec{OM} &= \frac{1}{k}\vec{a} + \frac{1}{k}\vec{b} + \vec{c} \\ |\vec{OM}| &= \frac{\sqrt{k^2 + 2}}{k} \end{aligned}$$

(1) M から xz 平面に下ろした垂線の足を P , x 軸に下ろした垂線の足を Q とする.

$P(\frac{1}{k}, 0, 1), Q(\frac{1}{k}, 0, 0)$ である.

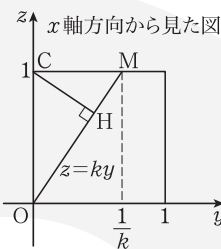
$$\cos \angle AOM = \frac{OQ}{OM} = \frac{\frac{1}{k}}{\frac{\sqrt{k^2 + 2}}{k}} = \frac{1}{\sqrt{k^2 + 2}}$$

$C(0, 0, 1)$ と平面 $OAM : z = ky$ の距離 (実質点と直線の距離の公式である) より $CH = \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}}$

四面体 $OAMC$ の体積を $[OAMC]$ で表す.

四面体 $OAMC$ は底面を三角形 OAC にする.

$$[OAMC] = \frac{1}{3} \triangle OAC \cdot MP = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{k} = \frac{1}{6k}$$



(2) $\vec{ON} = s \cdot \vec{OF} = s(1, 1, 1)$ とおいて,
 $\vec{MN} = (s - \frac{1}{k}, s - \frac{1}{k}, s - 1) \perp \vec{OC} = (1, 1, 1)$

内積をとり $s - \frac{1}{k} + s - \frac{1}{k} + s - 1 = 0$ であり
 $s = \frac{1}{3}(\frac{2}{k} + 1)$

$$\vec{ON} = \frac{k+2}{3k}(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c})$$

$N(s, s, s)$ と平面 $ABC : x + y + z = 1$ との距離を h とする.

$$h = \frac{|s + s + s - 1|}{\sqrt{3}} = \frac{2}{k\sqrt{3}}$$

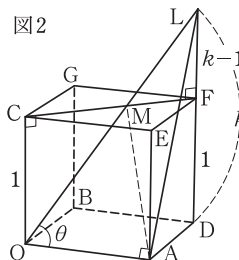
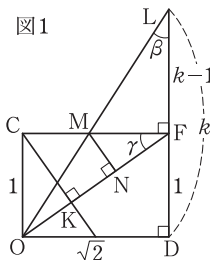
$$\triangle ABC = \frac{\sqrt{3}}{4}(\sqrt{2})^2 = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$[ABCN] = \frac{1}{3} \triangle ABC \cdot h = \frac{1}{3k}$$

◆別解◆ (1) $OL : OM = DL : DF = k : 1$

$$\begin{aligned} \vec{OM} &= \frac{1}{k}\vec{OL} = \frac{1}{k}(\vec{OA} + \vec{AD} + \vec{DL}) \\ &= \frac{1}{k}(\vec{a} + \vec{b} + k\vec{c}) = \frac{1}{k}\vec{a} + \frac{1}{k}\vec{b} + \vec{c} \end{aligned}$$

図1は平面 ODL に垂直な方向から見た図である.



4 東海大学・医学部 (1日目)

図2または図3を見よ. $AL = \sqrt{k^2 + 1}$
 $\angle OAL = 90^\circ$ であるから,

$$OL = \sqrt{OA^2 + AL^2} = \sqrt{k^2 + 2}$$

$$|\vec{OM}| = \left| \frac{1}{k} \cdot \vec{OL} \right| = \frac{\sqrt{k^2 + 2}}{k}$$

(2) $\theta = \angle AOL$ とする.

$$\cos \angle AOM = \cos \theta = \frac{OA}{OL} = \frac{1}{\sqrt{k^2 + 2}}$$

$$\triangle AOM = \frac{1}{2} OM \cdot OA \sin \theta$$

$$= \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{k^2 + 2}}{k} \cdot 1 \cdot \sqrt{1 - \cos^2 \theta}$$

$$= \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{k^2 + 2}}{k} \sqrt{1 - \frac{1}{k^2 + 2}} = \frac{\sqrt{k^2 + 1}}{2k}$$

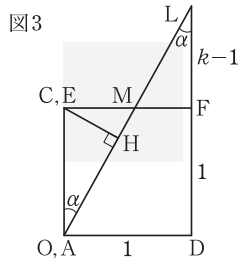


図3はAOの方向から見た図である.

$\angle ALD = \alpha$ とおく.

$$\sin \alpha = \frac{AD}{OL} = \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}}$$

$$CH = OC \sin \alpha = \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}}$$

四面体OAMCの体積を[OAMC]で表す.

$$[OAMC] = \frac{1}{3} \triangle AOM \cdot CH$$

$$= \frac{1}{3} \cdot \frac{\sqrt{k^2 + 1}}{2k} \cdot \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} = \frac{1}{6k}$$

(3) 図1にもどれ.

$\angle OLD = \beta$, $\angle OFC = \gamma$ とおく.

$$\tan \beta = \frac{DO}{LD} = \frac{\sqrt{2}}{k}, \cos \gamma = \frac{CF}{OF} = \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{3}}$$

$$MF = LF \tan \beta = \frac{k-1}{k} \sqrt{2}$$

$$NF = MF \cos \gamma = \frac{k-1}{k} \cdot \frac{2}{\sqrt{3}}$$

$$ON = OF - NF = \sqrt{3} - \frac{2k-2}{\sqrt{3}k} = \frac{k+2}{\sqrt{3}k}$$

$$\vec{ON} = \frac{ON}{OF} \vec{OF} = \frac{k+2}{3k} (\vec{a} + \vec{b} + \vec{c})$$

CからOFにおろした垂線の足をKとする.

$$FK = CF \cos \gamma = \frac{2}{\sqrt{3}}$$

$$KN = FK - NF = \frac{2}{\sqrt{3}} - \frac{2k-2}{\sqrt{3}k} = \frac{2}{\sqrt{3}k}$$

$$\triangle ABC = \frac{\sqrt{3}}{4} (\sqrt{2})^2 = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$[ABCN] = \frac{1}{3} \triangle ABC \cdot KN = \frac{1}{3k}$$

3 **数学B**【漸化式】標準

▶解答◀ (1) $a_2 = 4|a_1 - 1|$

$$= 4 \left| \frac{41}{32} - 1 \right| = \frac{9}{8}$$

$$a_3 = 4|a_2 - 1| = 4 \left| \frac{9}{8} - 1 \right| = \frac{1}{2}$$

$$a_4 = 4|a_3 - 1| = 4 \left| \frac{1}{2} - 1 \right| = 2$$

(2) $a_2 = 4|a_1 - 1| = 4 \left| \frac{47}{64} - 1 \right| = \frac{17}{16}$

$$a_3 = 4|a_2 - 1| = 4 \left| \frac{17}{16} - 1 \right| = \frac{1}{4}$$

$$a_4 = 4|a_3 - 1| = 4 \left| \frac{1}{4} - 1 \right| = 3$$

(3) $a = 4|a - 1|$

$a \geq 0$ かつ $a = 4a - 4$ または $a = 4 - 4a$

$$a = \frac{4}{5}, \frac{4}{3}$$

(4) $a > \frac{4}{3}$ のとき, つねに $a_n > \frac{4}{3}$ が成り立つことを証明する. $n = 1$ のとき成り立つ. $n = k$ で成り立つとする. このとき $a_k > \frac{4}{3}$

$$a_{k+1} = 4|a_k - 1|$$

$$a_{k+1} = 4(a_k - 1)$$

$$a_{k+1} - \frac{4}{3} = 4\left(a_k - \frac{4}{3}\right) > 0$$

である. $n = k + 1$ でも成り立つから, 数学的帰納法により証明された.

$$a_{n+1} - \frac{4}{3} = 4\left(a_n - \frac{4}{3}\right) \text{ がつねに成り立ち, 数列}$$

$\left\{ a_n - \frac{4}{3} \right\}$ は等比数列である.

$$a_n - \frac{4}{3} = \left(a_1 - \frac{4}{3}\right) 4^{n-1}$$

$$a_n = \left(a - \frac{4}{3}\right) 4^{n-1} + \frac{4}{3}$$

(5) $a_2 = 4|a - 1|$

$n \geq 2$ のとき, つねに $a_n = \frac{4}{5}$ ならば

$$\frac{4}{5} = 4|a - 1|$$

$$a - 1 = \pm \frac{1}{5} \text{ で, } a = \frac{4}{5}, \frac{6}{5}$$

$$a_1 \neq \frac{4}{5} \text{ のとき, } a = \frac{6}{5}$$

このとき $n \geq 2$ でつねに $a_n = \frac{4}{5}$ になることは, 論述問題ではないから証明の必要はなからう.

(6) $a_2 = 4|a - 1|$

$$a_3 = 4|a_2 - 1|$$

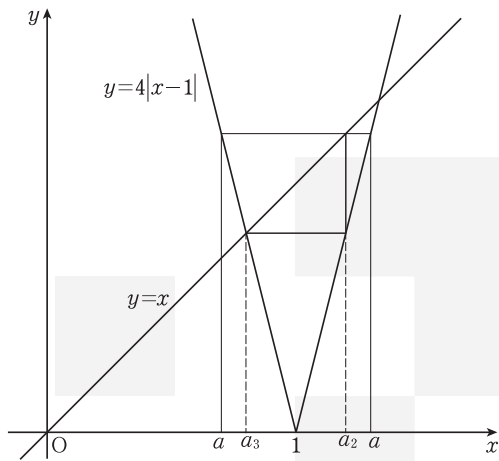
$n \geq 3$ のとき, つねに $a_n = \frac{4}{5}$ ならば

$$\frac{4}{5} = 4|a_2 - 1|$$

$a_2 = \frac{4}{5}, \frac{6}{5}$ であり, $a_2 \neq \frac{4}{5}$ より $a_2 = \frac{6}{5}$

$$\frac{6}{5} = 4|a - 1|$$

$$a - 1 = \pm \frac{3}{10} \quad \therefore a = \frac{7}{10}, \frac{13}{10}$$



図のように定まる.

6 東海大学・医学部 (1日目)

🔪 **要の分析** 数 III が, 出題範囲ではなくなり, 全体的に易くなったが, それでも十分に手数が多

いし, 考えさせる問題 (1(5)) もある.
(三輪, 田中博, 細川, 前田拓, 安田亨)

